

## 第一章

我ら、日本に在りてキリスト・イエスとその福音とを告白し、その恩寵の佑助によりて一国一教会となれる日本基督教団及び其に属するもろもろの肢は、東亜共栄圏内に在る主にありて忠信なる基督者たちに心よりの挨拶を送る。願はくは我らの主イエス・キリストの恩寵と平安、常に諸君の上にあらんことを。

主に在りて忠信なる兄弟たちよ。我らは未だ面識の機会なく、互に伝統と生活の慣習とを異にしてあるが、かかる諸々の相違にかかはらず我らを一つに結ぶ鞏固なる紐帯が二つあると思ふ。其の一つは、我らの共同の敵に対する共同の戦ひといふ運命的課題である。彼ら敵国人は白人種の優越性といふ聖書に悖る思想の上に立って、諸君の国と土地との収益を壟断し、口に人道と平和とを唱へつつ我らを人種的差別待遇の下に繋ぎ留め、東亜の諸民族に向って王者の如く君臨せんと欲し、皮膚の色の差別を以て人間そのものの相違でもあるかのやうに妄断し、かくして我ら東洋人を自己の安逸と享樂とのために顧使し奴隷化せんと欲し、遂に東亜をして自国の領土的延長たらしめやうとする非望を敢てした。確かに彼らは我らよりも一日早く主イエスの福音を知ったのであり、我らも初め信仰に召されたのは彼らの福音宣教に負ふものであることを率直に認むるに吝かではないが、その彼らが今日飽くなき貪りと支配慾との誘惑に打ち負かされ、聖なる福音から脱落してさまざまの誇と驕慢とに陥り、如何に貪婪と偽善と不信仰とを作り出したかを眼のあたり見て全く戦慄を覚えざるを得ない。かくの如き形態を採るに至つた敵米英の基督教は、自己を絶対者の如く偶像化し、嘗て使徒がまともに其の攻撃に終始したユダヤ的基督者と同一の型に嵌つたのである。「汝ユダヤ人と称へられ、盲人の手引、暗黒にをる者の光明、愚なる者の守役、幼児の教師なりと自ら信ずる者よ。何ゆゑ人を教へて己を教へぬか。竊む勿れと宣べて自ら竊むか。姦淫する勿れと言ひて姦淫するか偶像を悪みて宮の物を奪ふか」（ロマ書二・一七 - 二二）。これは悉く先進基督教国を以て自認する彼らの所業に当嵌ってはみないであらうか。彼らがもしこのやうな自己の罪に目覚め、悔改をなし、一日後れて信じた我らと同一線上に立って始めて信ずる者の如く日毎に主を告白する純真な信仰を有つてゐたならば、かかる反聖書的な東亜政策を採るに到らなかつたであらう。彼らが若し主への真の従順と奉仕とを日毎に決断し実行してゐたならば、自国の内外の政治軍事経済文化の凡ゆる領域に亘つてあのやうな敗退と混乱とを演じないですんだであらう。

我らは聖書に基く洞察と認識とによつて彼らの現状を憐むと共に、この不正不義を許すべからざるものとして憎まずにはあられない。

日本はこの敵性国家群の不正義に対して凡ゆる平和的手段に出でたるに拘らず、彼らの傲慢は遂に之を容れず、日本は自存自衛の必要上敢然と干戈を取つて立つた。而も緒戦以来皇軍によつて挙げられた諸戦果とその跡に打樹てられた諸事実とは、我が日本の聖戦の意義を愈々明確に表示しつつあるではないか。彼らの不正と不義から東亜諸民族が解放されることは神の聖なる意志である。「神は高ぶる者を拒ぎ、謙たる者に恩恵を与へ給ふ」（ヤコブ書四・六）。それ

では米英の高ぶりは何によつて排撃されるであらうか。皇軍の将兵によつてであり、地上の正義のために立ち上った東亜諸民族の手によつてである。そして諸君の民族がこの大聖戦に我ら日本と共に同甘共苦、所期の目的を達成するまで戦ひ抜かうと深く決意し、欣然参加協力せられたことによつて、大東亜の天地には、我ら日本人と共に諸君の、即ち大東亜諸民族の一大解放の戦ひ、サタンの狂暴に対する一大殲滅戦の進軍を告ぐる角笛は高らかに吹き鳴らされたのである。聖にして義なる神よ、願はくは起き給へ！而して我らの出でゆく途に常に偕に在して、行手を照し助け導き給へ。兄弟たちよ、諸君と我らを結ぶ第一の絆は、我らが相共にこの聖戦に出で征く戦友同志であるといふ深い意識である。

次に我らを種々の相違にも拘らず一つに結ぶ第二の、而も決定的な絆は、我らが共に主キリストを信じ靈的に彼の所屬であるといふことである。彼は我らの生と死における唯一の慰めであり、教会の主であり給ふ。我らはこの天地の主なる神の御言また御子が肉体を取り、我らの如きものの一人として、我らの兄弟として今此処に立ち給ふことによつて、何等の代償無くして、唯御恩寵に由り主イエスの兄弟としての破格の待遇に浴し、一切の罪を赦され、罪と死との彼岸にある永遠の生命の約束に与る神の子たちの新しい身分に移されたのである。信仰者の生にとってこの主を認識し、この主に奉仕すること以上に貴重なる財産は何一つない。兄弟たちよ、我らは、この信仰の認識と奉仕とを、この感謝と讃美とを、我らより奪ひ去りうるものは何一つとしてないという確信に於て一致してある。この主より賜はりたる貴き福音の富を、我らの同胞と隣人に持ち運ぶ愛の委託を我らより奪ひうるものは何一つとしてないのである。「而して御国のこの喜びの使信はもろもろの民族への証言として全世界に互つて宣伝へられん」（マタイ伝二四・一四）

我らがかかる約束を賜はったといふことは、福音宣教の唯一の命令に縛り付けられたといふことに他ならない。我らは罪人たる我らの業や言に頼って、どれだけこの約束を実証し、どれだけこの命令を果しうるであらうかを知らない。

しかし我々の罪ある被造的な、相対的な決意と努力と業とを通じて、真にこの命令を成遂げ給ふ者は、我らではなく命令者イエス・キリスト御自身であり、ただ彼のみであるといふ確信において一致してみると信ずる。またこの主イエスは、神を愛するとともに「己の如く汝の隣を愛すべし」と命じ給ふた。我らが主の福音を聞いたといふことは、必然的にこの主の誠命に聴き徒ったといふことでなければならぬ。大東亜共栄圏の理想は、この主の隣人愛の誠を信仰に於て聞き、服従の行為によつて実践躬行することを我らに迫る。我らはこの主の誠命の下に立ち、凡ゆる障害を排して一直線に前進すべきである。この必然の道において我らは全き一致を示し得るではないか。「汝ら召されたる召に適ひて歩み、平和の繫（靱帯）のうちに勉めて御霊の賜ふ一致を守れ」（エペソ書四・一、三）。兄弟たちよ、我らは牛が力を合せて犁を牽くやうに、この強靱なる紐を牽いてゆかなくてはならぬ。これが諸君と我らとを結ぶ第二の決定的な索縄である。

## 第二章

愛する兄弟たちよ。

我らは諸君に期待し、諸君を信頼してゐる。諸君は、「凡そ真なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳、いかなる誉にても汝らこれを念ひ」（ピリピ書四・八）。これを認むるに吝かでないであらうことを。この大東亜戦争遂行にあたって、我が日本と日本国民とが如何なる高遠の理想と抱負とを懐いてゐるかは、次第に諸君の了解されつつある所であらう。我らも亦政治経済文化の各部面で諸君と提携するために腐心し挺身しつつある我が朝野の、軍官民の先達たちの報告によつて、諸君の中に我らの学ぶべき「凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あるべきこと」のあるを聞き知り、尊敬と共感と親愛の情を覚え、諸君に強く牽かるる思ひがする。諸君が地域の如何を問はず、文化の傾向を論ぜず、よきものに共感し、尊きものを尊しとする公明正大の心を有ち、敵性国民の無責任にして放縦なる個人主義とは全く類を異にすることを確信する。而も諸君は人間の個性的な面に於てまことに深きものを包蔵し各自の職域にあって飽くまでも自己の深い信念に生き、それと密接に繋つてゐる高い公の犠牲的精神を備へてゐらるる様子を聞くに及んで、早く諸君の風ぼうに接したいと願ふ念ひや切である。神若し許し給はばいつか我らは諸君の許に往き、諸君も我らの許に来て、互に個人的に親しく相交り、顔と顔とを合せて相識り、かたく手を握り合ふことも許されるであらう。しかし我らも諸君自身を相識ること浅い如く、諸君も亦我が日本の真の姿を識ることに於て未だ不十分であるかも知れない。乞ふ、我らが今少しく「大胆に誇りて言ふ」（コリント後書二・一七）ことを許せ。

抑々我が日本帝国は、万世一系の、天皇これを統治し給ひ、国民は皇室を宗家と仰ぎ、天皇は国民を顧み給ふこと親の子におけるが如き慈愛を以てし給ひ、国民は忠孝一本の高遠なる道徳に生き、その国柄を遠き祖先より末々の子孫に伝へつゝある一大家族国家である。我ら国民は、畏くも民を思ひ民安かれと祈り給ふ天皇の御徳に応へ奉り、この大君のために己自身は申すまでもなく親も子も、夫も妻も、家も郷も、悉くを捧げて忠誠の限りを致さんと日夜念願してゐるのである。この事實は諸君が既に大東亜戦争下皇軍将士の世界を驚倒せしむる勇猛果敢な働きをみて、その背後に潜む神秘的な力として感付いてゐらるる所であらうが一度でも我国の歴史をひもといた者はその各頁がこの精神に充ち満ちてゐることに驚異せられるに違ひない。

兄弟たちよ。諸君は使徒が「凡そ真なること、凡そ尊ぶべきこと」と語つてゐるところのものは、単に教会の中なる諸徳について云つてゐるのではなく、教会の外の一般社会の中にある斯くの如きものを、思念せよ、尊敬せよと云つてゐるのである事を十分御承知と思ふ。この美徳を慕ふ感情においても諸君は我らと一つであられるであらう。分裂崩潰の前夜にある個人主義西欧文明が未だ一度も識らなかつた「凡そ尊ぶべきもの」が、東洋には残つてゐる。我らはこの東洋的なものが、今後の全世界を導き救ふであらうといふ希望と信念において諸君と一致してゐる。全世界をまことに

指導し救済しうるものは、世界に冠絶せる万邦無比なる我が日本の国体であると言ふ事実を、信仰によって判断しつつ我らに信頼せられんことを。

諸君の既に屢々聞き知ってゐられるやうに、我ら日本人の組先は非常に謙虚に、而も積極的に、心を打ち開いて外来の文化を摂取したのである。中国よりは、君らの優れたる父祖である孔、孟の教を。印度よりは、君たちの聖者釈迦を開祖とする仏教と之と共に印度文明を。而も我らの先組たちは決して当時の先進諸外国の文化に心酔したのではなく、非常に博大な心と謙虚な思ひをもって之を摂取し習得したのみならず、高く強い国体への信念と之に基く自主性に立って、これを我国振りに副ふやうに醇化し日本化して来たのである。かの聖徳太子の準備せられ中大兄皇子の完成し給うた大化の改新は、支那古代の儒教と制度文化が日本化して具現された最初の結実である。次に我が鎌倉時代の日本仏教特に道元の開いた日本禅は、印度の仏教が中国を経て我国の土壤に吸収消化され、之に全く日本的な新生面を開いたもので、この時代以後我が国民精神の基調となり日本武士道の培養の素となったものである。又支那の曇鸞、善導の浄土門信仰は、日本の法然、親鸞によって世界の宗教学者達が驚歎するほどの絶対恩寵宗教の立場に醇化発展を遂げたのである。我が飛鳥天平の文化、平安時代の文芸より、鎌倉時代の武芸、禅学、彫刻にいたるまで、更に室町、安土、桃山時代の豪華なる建築、茶道、絵画、江戸時代の儒学、国学、蘭学より、さては明治維新以後のヨーロッパ文明の摂取醇化にいたるまで、凡て日本人の深い謙虚さと己を失はない高い信念との所産でないものはない。我らの父祖は此等の外国のよきものを虚心怛懐に学ぼうとしたと共に、深い批評精神に基いて之に創意を加へ、日本化し、独特の日本文化を産出し、今日の隆盛をいたしたのである。

かくの如き歴史の盛観を現出することを得た所以は、日本精神の創造的活動の根柢に儼乎たる尊厳無比の国体が存したるに由る。殊に外来文化の摂取に当って指導者達が常に新文化の先覚者であったことは、日本精神が如何に強靱にして而も柔軟性に富んでゐるかを物語る。まことに霊峰富士に象徴せらるる明るき清き直き心である。

右の如き大精神は、ただ日本の国土内に留まるにはあまりに崇高にして広大無辺である。今より十余年前に独立し爾来益々発展を遂げつつある満洲帝国といひ、我らと協力して敵米英に宣戦した中華民国といひ、盟邦泰国、過ぐる日独立を祝祭した新生ビルマ国家、最近独立して新政府を組織した我らの兄弟フィリピン、その他如何なる地域いかなる辺境といへども、恰も太陽が万物を光被化育するやうに、この大精神に照し掩はれてゐないものはなく、相共に深い決意を以て互に扶け、互に尊敬し、互に愛し、正義と共栄との美しい国土を東亜の天地に建設することによって神の国をさながらに地上に出現せしめることは、我ら基督者にしてこの東亜に生を享けし者の衷心の祈念であり、最高の義務であると信ずる。

### 第三章

我国の有力な基督者の一人である内村鑑三は、当時欧米文明の滔々たる輸入と憧憬との支配してゐた時代風潮の中にあつて「世界は畢竟基督教によりて救はるのである。而かも武士道の上に接木せられたる基督教に由りて救はれるのである」と喝破した。彼は夙に欧米の特に米国の宣教師が成功と称して勢力と利益と快樂とを追求する信仰を非信仰として排斥し、宣教師の一日も早く日本より退散して、日本人の手による日本国自生の基督教の必要を叫んだ先覚者である。

彼の予言はまた諸君にも当嵌るところであり、心ある士が既に考へられてゐるやうに、大東亜には大東亜の伝統と歴史と民族性とに即した「大東亜の基督教」が樹立さるべきである。我らは今信仰における喜びと感謝と誇りとをもつて、日本には日本の社会と伝統と民族性とに基いた独特の日本の基督教会が建設されるに至つた、而もそれが愈々確立しつつあるといふ事実を報じたいのである。今その日本基督教確立の歴史的沿革と独自固有の性格とを簡略に述べたいと思ふ。

日本に基督教が渡来したのは、遠く天文十八年（一五四九）にフランシス・ザヴィエルが最初の宣教師として来朝したことに遡る。しかしこれはロマ・カトリック教会の基督教であつて、プロテスタント教会の伝道は明治維新以後近代日本国家が世界に向つて開国したのちのことである。当時武士の子弟にして青雲の志を抱く前途有為の青年達が、宣教師の開きし聖書学校に最初は英語を学ぼうとして集い來つたが、実に測りがたき神の恩恵によって彼らの中の或る人々に御言の種が植えつけられることとなつた。澤山保羅、新島襄、本多庸一、植村正久、海老名弾正、小崎弘道等みな純然たる日本武士が、此の教を聴くに及んでその中に日本武士道に通ずる深い奥儀の秘められてあるを悟り、啻に一人の基督教信徒たりしのみならず、進んでイエスの命令「汝は往きて宣伝へよ」に全心全霊を以て従ひ、パウロの如く「然れど母の胎を出でしより我を選び別ち、その恩恵をもて召し給へる者」の声を聴き、「御子を我が内に顕して其の福音を異邦人に宣伝へしむるを可しとし給へる時」といふ信仰と自覚との下に、御言をこの国土と同胞との間に持ち運ぼうと深く決意した。彼らは走つた。併し彼らと共に御言が。主御自身が走り給うた。彼らは倒れもした。併し主は彼らと共に倒れ給はぬ。福音の宣教は未だ数少き幼い教会によつて大胆に行はれた。この様子を看て宣教師たちは驚いた。そして心ある者は秘かに考へたと云ふ。「日本人は變つてゐる。日本人の伝道は日本人の手に委ねるべきである」と。かくして日本における『使徒行伝』は彼ら初代伝道者先覚者たちによつて綴られていった。或時は同胞の無理解と侮蔑と嘲笑を買つたが此やうな状況下に次第に信ずる者の数増し加へられ、日本の基督教会は生ひ立っていった。主イエスは彼らの眞実な活動によつてこの国に益々偉大となり、彼らの弱きときに彼等の中に神の力をもつて強く存した。ことに基督教は日本武士道に接樹され、儒教と仏教とによつて最善の地ならしをされた日本精神の土壤に根を下し花を開き結実していったのである。

初代先覚者によつて薰陶された第二、第三の後継者たちも大君に捧ぐる清明心と隣人を敬愛する情誼と千万人といへ

ども我往かんといふ勇氣とを以て地上的一切の榮達を擲ち、キリストに把へられつつ後のものを忘れ前方の目標を追ひ求めていった。そして個人主義・自然主義・社会主義・無政府主義・共産主義などの諸思想が猛り狂ひ、怒涛の如く押寄せて来る大正時代より昭和の初期にかけて、能く之に戦を挑み、キリストの真理を護り、肇国の大義に生き抜いたのである。これら日本基督教の指導者たちを偲ぶにつけても、我国体の本義と日本精神の美しくして厳しいものが遺憾なく発揚せられたる事実を想起し感慨無量である。

而して遂に名実とも日本の基督教会を樹立するの日は来た、我が皇紀二千六百年の祝典の盛儀を前にして我ら日本の基督教諸教会諸教派は東都の一角に集ひ、神と国との前にこれら諸教派の在来の博統、慣習、機構、教理の一切の差別を払拭し、全く外国宣教師たちの精神的・物理的援助と羈絆から脱却、独立し、諸教派を打つて一丸とする一国一教会となりて、世界教会史上先例と類例を見ざる驚異すべき事実が出来したのである。これはただ神の恵みの佑助にのみよる我らの久しき祈の聴許であると共に、我が国体の尊嚴無比なる基礎に立ち、天業翼賛の皇道倫理を身に体したる日本人基督者にして始めて能く為し得たところである。

かかる経過を経て成立したものが、ここに諸君に呼びかけ語ってある「日本基督教団」である。その後教団統理者は、畏くも宮中に参内、賜謁の恩典に浴するといふ破格の光榮に与り、教団の一同は大御心の有難さに感泣し、一意宗教報国の熱意に燃え、大御心の万分の一にも応へ奉らうと深く決意したのである。

本年四月には在来の諸学校が教団立神学校として統一され、教団の制度組織も形式内容も日々に整備せられ、全一体たる教会の実を益々具現しつつある。之を国史に徴するも一大盛事と謂ふべく、之を古より鬭争に終始した西欧の教会史に徴するも、寔に主の日の予兆の大なる標識といふべきであらう。「遂に一つの群一人の牧者となるべし」（ヨハネ伝一〇・一六）。

## 第四章

我らの敬愛する兄弟たちよ。

我らは諸君に我らの信仰を告白し我らの衷情を披瀝したこの長い書翰を結ぶ前に今少しく熟慮して頂きたいことがある。使徒パウロがピリピの教会に勧めてあるやうに、我らはキリストの慰めによって呼びかけられてある者として同じ愛と同じ思念とを懐き一つとならなければならない。我らは敵性国民らの基督教にのみならず、我ら自らの中にも、自己に立ち、己を高しとし、他を己に優れりとなし得ぬ罪が「唯一つの事」（ピリピ書二・二）を念はうと欲せざる人間固有の分裂的遠心作用が働いてあることを人間存在の秘奥の底に認めざるを得ない。キリストはかかる我らに代って我らの成し得ず又成さうと欲しない所を成し達げ給うた。即ち彼は神の子であり神と同等の者であり給うたが、この彼の本来固有の所有をさへ我ら人間の如く固執することを事とし給はず、却て己を空虚にし、己の神的本質とは全く異質の人間的本性を身に纏ひ、人と成り給ひ、そのみならず更に進んで我らのために十字架上に苦しみ、死し、この彼の途を地の底なきところにまで進み給うた。而して父なる神の意志に我らに代って完全に従ひ給うた。ここに神の人間に向ってなし給うた宥和と啓示との行動は、隠されつつしかも現実につた。このゆゑに神は彼を死の床より起し給うた。死人の中より甦へらしめ給うた。さうして彼の死人の復活を我らの救ひ、助け、力として栄光の中に証示し給うたのである。まことにイエスは教会と共に全世界に父を示した予言者であり、教会と共に全世界に代わって父の許に執成をなし給うた祭司であり、全教会の主にて在し給ふ。

兄弟たちよ。我々はこのキリストを証しする証人であり、彼の体であるといふことを銘記しようではないか。彼よりこの宥和を宣伝する職務を賜はってゐない者は彼の恩寵を受けてゐるとはいへない。彼なしには失はれてをり彼に於てのみ救の約束をもってゐる全世界の、被造物の嘆きを聞かないでは、我らは教会の主の御声を聞いてゐるのではない。我ら大東亜の基督者が同胞諸民族の間でこの主の光を反射してから輝いてゐなければ、光を有つてゐるのではない。ナザレのイエスの使信と犠牲の死と権能の証示とこそ、我らの慰めである。ただに我ら基督者のみならず。我らの属する大東亜諸民族の慰めである。彼の中に我らの途の終があると共に凡ての人の一切の途の終がある。彼の中に我らの途の始があると共に我らの同胞凡ての生くる途の眞の発端がある。この事こそ我らの希望である。啻に我ら基督者のみならず、東亜諸民族の希望である。繰返して云ふ。かのイスラエル民族によって捨てられ、天地の主なる神によって栄光の中に証示され給へる者、彼が我ら教会とその肢のみならず全世界の慰めである。我らが様々の運命と謎と苦難と死との中に存在しつつ而もそこで生命への信頼を有ち得る基礎は、イエス・キリストの栄光の日に於て天地の更新に於て顕示せられるものに外ならぬ。これが我らの希望である。

兄弟たちよ、我らはこの慰とこの希望とを一つにするがゆゑに、同じ愛、同じ思念の中に一つとならなければならぬ。隣人愛の高き誠命の中にあの福音を聞き信じつつ大東亜共栄圏の建設といふ地上に於ける次の目標に全人を挙げ全力を

尽さなければならぬ。我らはこの信仰とこの希望とこの愛とを一つにする者共であるから、同じ念ひ、共同の戦友意識、鞏固なる精神的靱帯に一つに結び合はされて、不義を挫き、正義と愛の共栄圏を樹立するためにこの難字を最後まで戦ひぬかなければならぬ。我らはこのことを諸君に語る前に自分自らに語ってゐる。我らの盟友にして戦友よ！「汝らキリスト・イエスのよき兵卒として我らと共に苦難を忍べ」（テモテ後書二・三）。

我らは祈る。キリストの恩恵、父なる神の愛、聖霊の交際、我らがその実現の一日も早からんことを望みて止まざる大東亜共栄圏の凡ての兄弟姉妹の上にあらんことを、アアメン。